

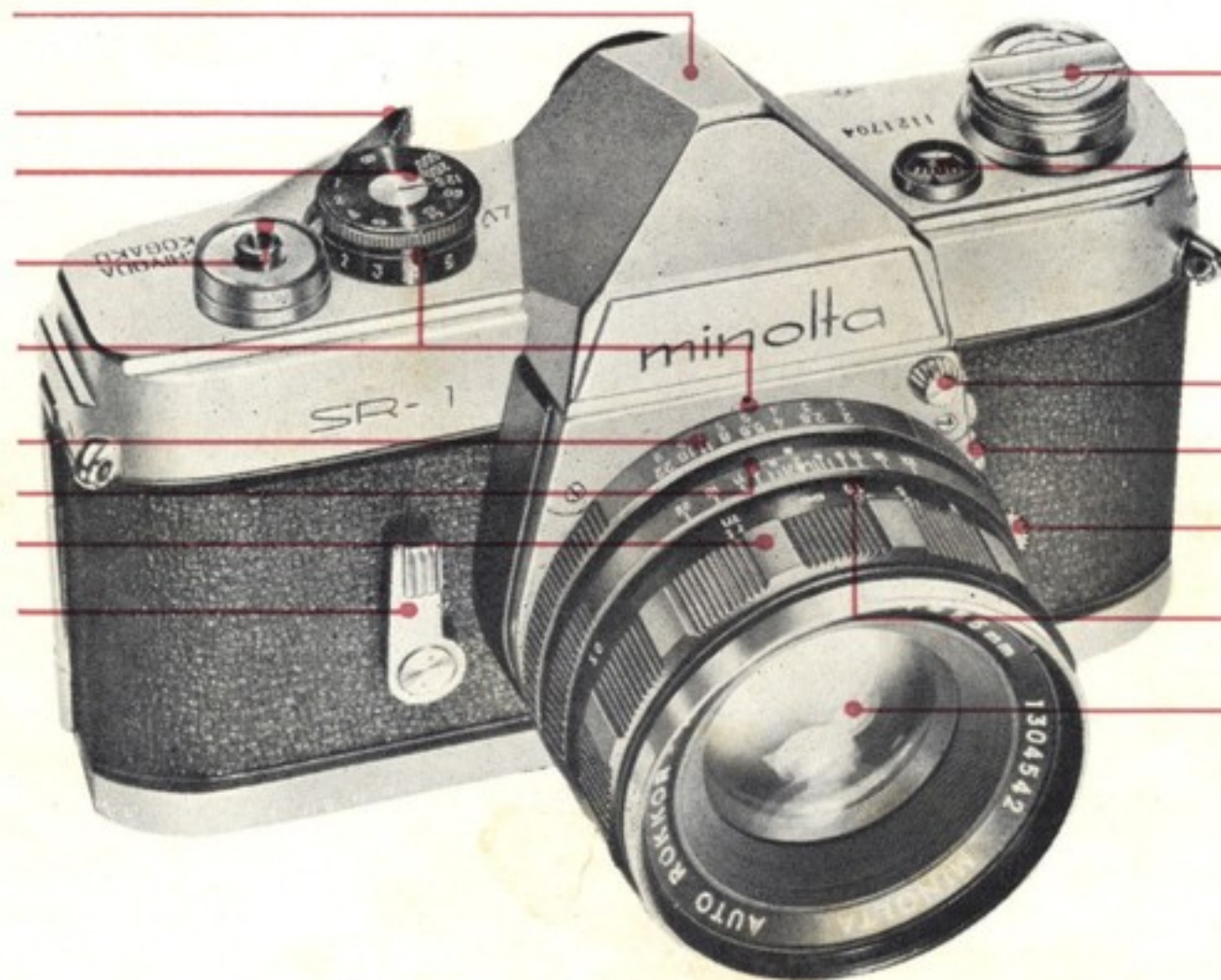
# Minolta SR-1 使用說明書





## ミノルタSR-1の各部の名称

ペンタダハプリズム  
 巻上げレバー  
 シャッターダイヤル  
 シャッターボタン  
 ライトバリュウム盛  
 絞りリング  
 被写界深度目盛  
 焦点調節リング  
 セルフタイマーレバー



フィルム巻戻しクランク  
 兼、裏ぶた開閉ノブ  
 撮影枚数表示窓  
 レンズ交換用ボタン  
 シンクロターミナル  
 絞りクリックストップボタン  
 距離目盛  
 標準レンズ



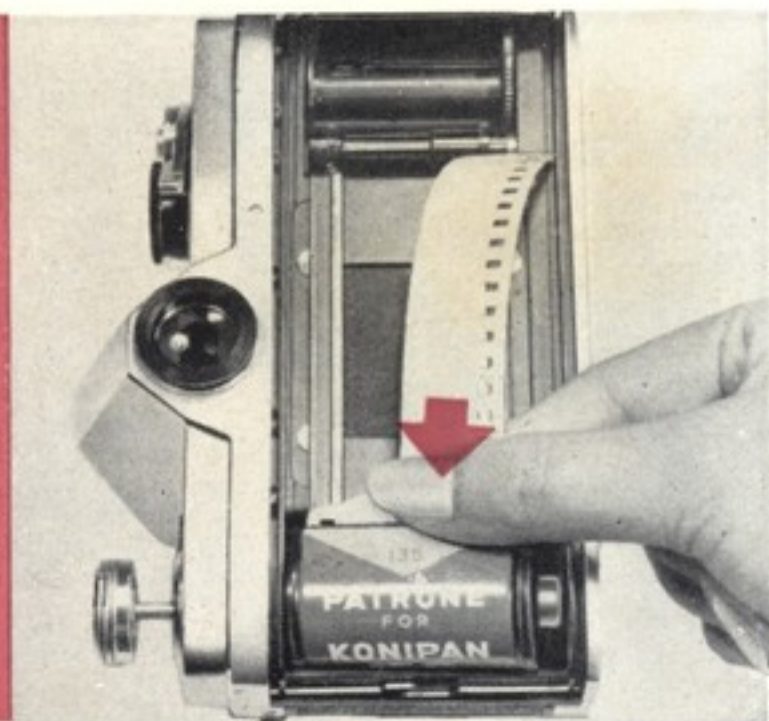
フィルム圧着板  
フィルム巻取り軸  
スプロケット  
シャッター幕  
ファインダーのぞき窓  
パトローネ受け軸  
三脚ねじ穴  
付属品取付け位置規制穴



フィルム巻戻しボタン

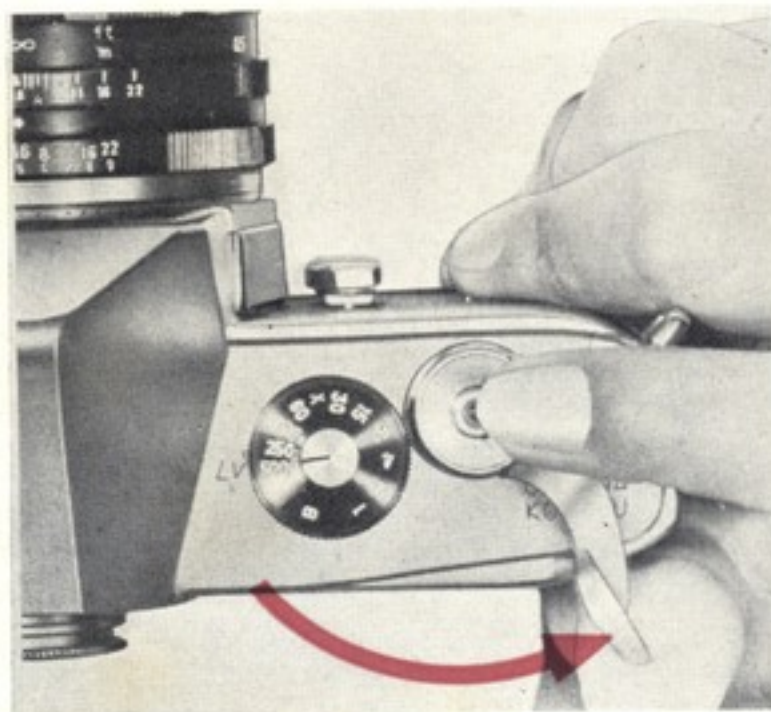


撮影にはこれだけの操作が必要です



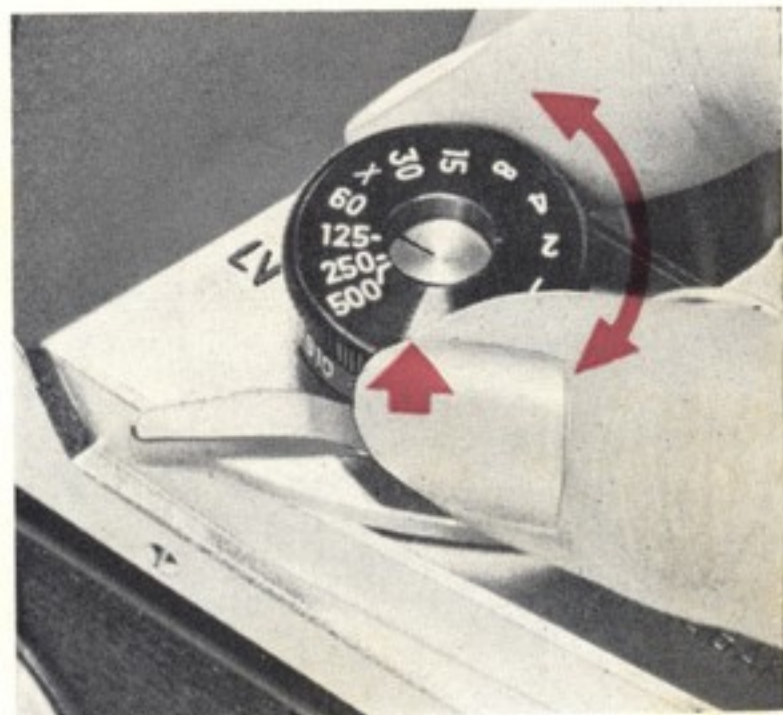
**1**

フィルムを入れます



**2**

レバーを巻上げます



**3**

シャッター速度を合せます



各操作について次頁から詳しくご説明いたしましょう



**4** 絞りを合せます



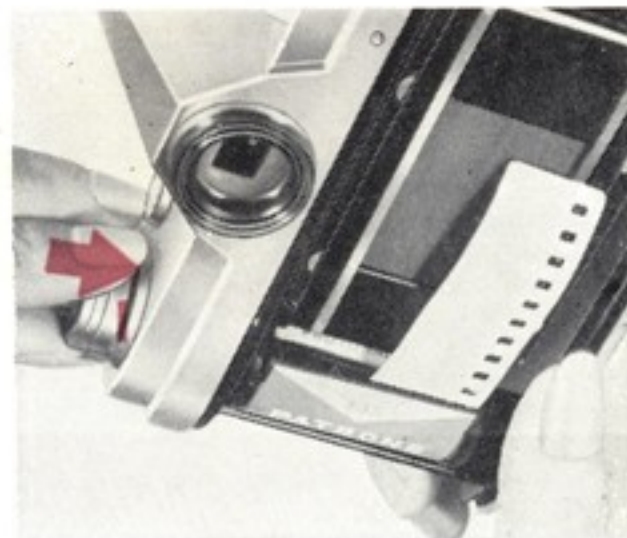
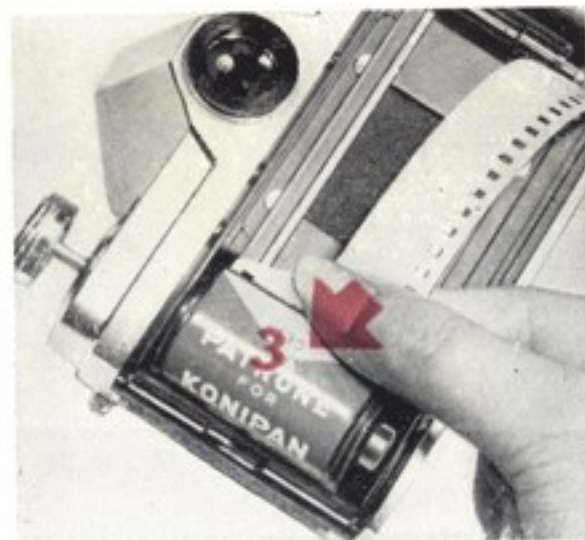
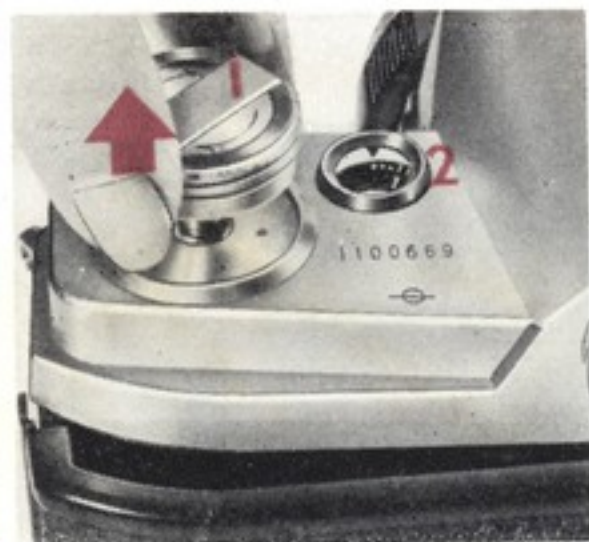
**5** ファインダーをのぞいて  
構図を決め焦点を合せます



**6** シャッターボタンを押します



市販の20枚撮り、または36枚撮りのパトローネ入り 35mmフィルムを使用します

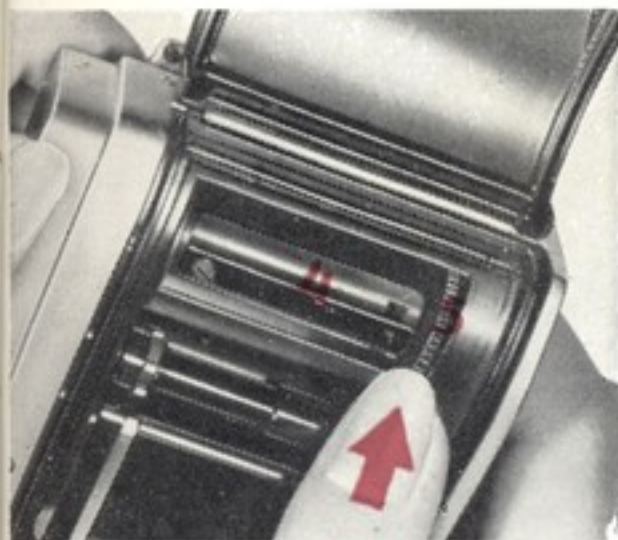


1. 裏ぶた開閉ノブ（巻戻しノブ兼用）①を一段引き出し、更に強く少し引くと裏ぶたが開きます。裏ぶたが開くと撮影枚数盤②は自動的にスタート位置に戻ります。

2. パトローネ③をカメラのフィルム室に入れます。このとき、パトローネの軸の出ている方が、カメラの底の側へくるようにし、軸の出ている方をカメラの受軸にはめるようにして先に入れます。

3. 裏ぶた開閉ノブ①を元通りに押し込みます。はいりにくいときは、少し左右に回して完全に押し込んで下さい。





4. フィルム巻取り軸④の端にある歯車⑤を指先で回してフィルムを差し込むクリップを上側に出します。



5. フィルムの先端をパトローネから少し引き出し、図のように手前側から歯車⑤に沿わせてクリップに差し込みます。フィルムの先端がクリップから5ミリ位出たところで止め、フィルムの送り穴をスプロケットの歯⑦にはめます。

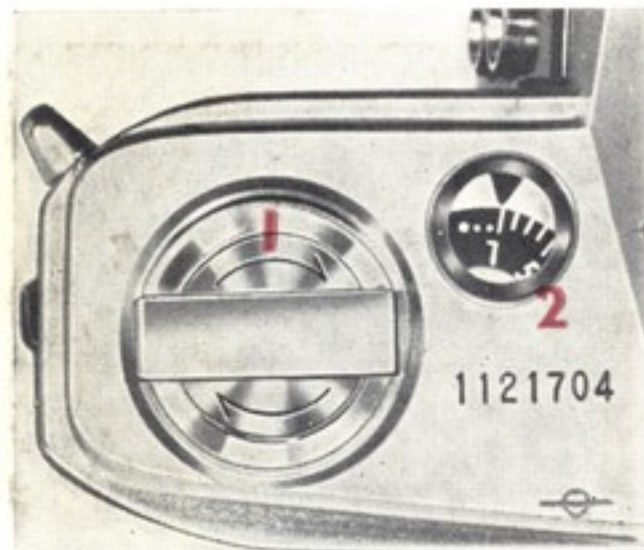


6. 巻上げレバー⑥を少しずつ回してフィルムの両側の穴にスプロケット⑦の歯がかみ込むところまでフィルムを巻取ります。途中で巻上げレバーが動かなくなればシャッターボタン⑧を押せば再び動くようになります。



フィルムの出し入れは日陰で行って下さい。フィルムを入れるときシャッター幕にさわらないようご注意下さい





7. フィルムが平行に巻取られていることを確かめてから（但し、パトローネから引き出した部分のフィルムは感光してしまいますから、あまり多く巻取ると撮影出来る枚数が少くなります）裏ぶたをパチンとしめます。

8. 巻上げレバー⑥を止まるところまで回してシャッターボタン⑧を押します。これを2回くりかえしてから、さらにもう一度巻上げレバーを止まるところまで回します。これでフィルムの感光した部分が巻取られ、感光していないフィルムが撮影位置に送られました。同時にシャッターもセットされています。

9. 撮影枚数盤をごらん下さい。赤い▲印が1を指しています。これでシャッターを押せば1枚目の撮影ができるわけです。以後フィルムを巻上げると撮影枚数表示盤は自動的に一目盛つつ進みます。

パトローネの中のフィルムがゆるんでいることがありますから、撮影を始める前に巻戻し軸①を軽く矢印の方向に少し回して、フィルムのゆるみを締めておきましょう。



S 級 フィルム	ASA	50
SS 級 フィルム	//	100
SSS 級 フィルム	//	200
ネオパンF	//	32
さくら天然色フィルム	ASA	10
コニカラーネガタイプ	//	50
フジカラーリバーサル	//	10
フジカラーネガタイプ	//	32
オリエンタルリバーサル	//	16
オリエンタルネガタイプ	//	12

その他のフィルムは、フィルムの箱または説明書をごらん下さい。

## フィルム感度インディケーター

忘れないうちに、フィルム感度インディケーター(表示盤)を、今装填したフィルム(ASA(またはDIN)感度数に合わせておきましょう。あとで、露出を決める場合に、使用中のフィルムの感度を知る必要があるからです。

ダイヤルの突起⑩を回してASA/DINと書いた白線にフィルムの感度数を合せればよいのです。

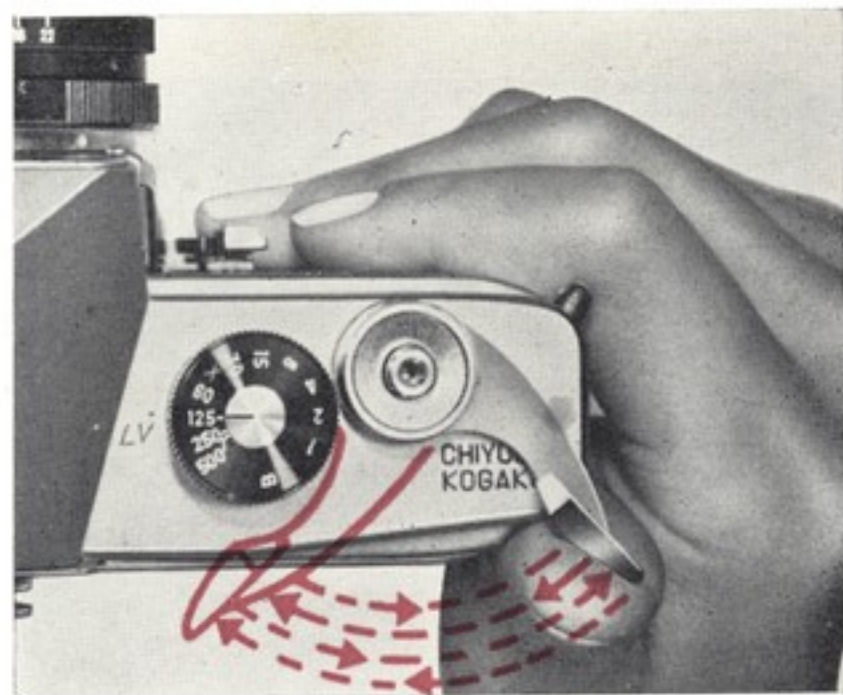
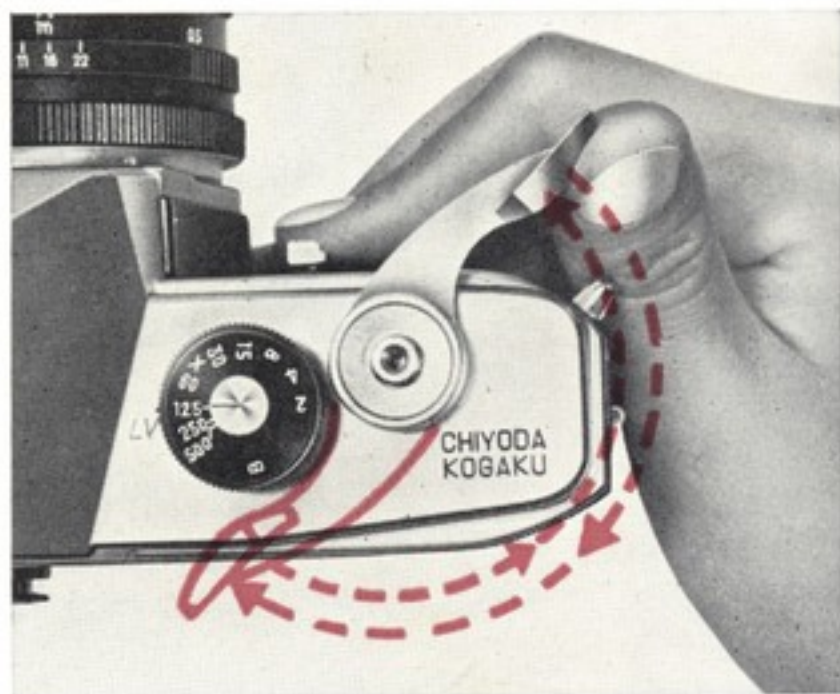
例えばASA 200のフィルムならこの写真のように合せます。

カラーフィルムの場合は赤字の目盛の方を合せて下さい。





巻上げレバーを止まる  
ところまで完全に回さないとシャッターボタンは動きません。なお、シャッターボタンを押しているとき、巻上げレバーは回りません。



1秒、1/2秒のようなスローシャッターを切ったときは、必ずシャッターの作動が終ってから、次のフィルムの巻上げをして下さい。

巻上げレバーは止まる  
ところまで完全に回して下さい。一度に巻上げても、または数回に分けて止まる  
ところまで小さく巻上げてもかまいません。

巻上げレバーを止るところまで回すと

- 1 フィルムが一コマ巻上げられ
- 2 撮影枚数盤が一目盛進み
- 3 シャッターがセットされ
- 4 内部の反射鏡のスプリングがチャージされ
- 5 絞りが自動的に開放になります。

フィルムを巻上げた場合、内部でフィルムが正しく進行している場合には、巻戻しノブが矢印と反対の方向に回ります。従ってフィルムを巻上げるときは巻戻しノブに触れないようにして下さい。但し、最初の内、パトローネ内のフィルムがゆるんでいる場合はしばらくの間、回らないことがあります。



### 3

## シャッター速度の合せ方

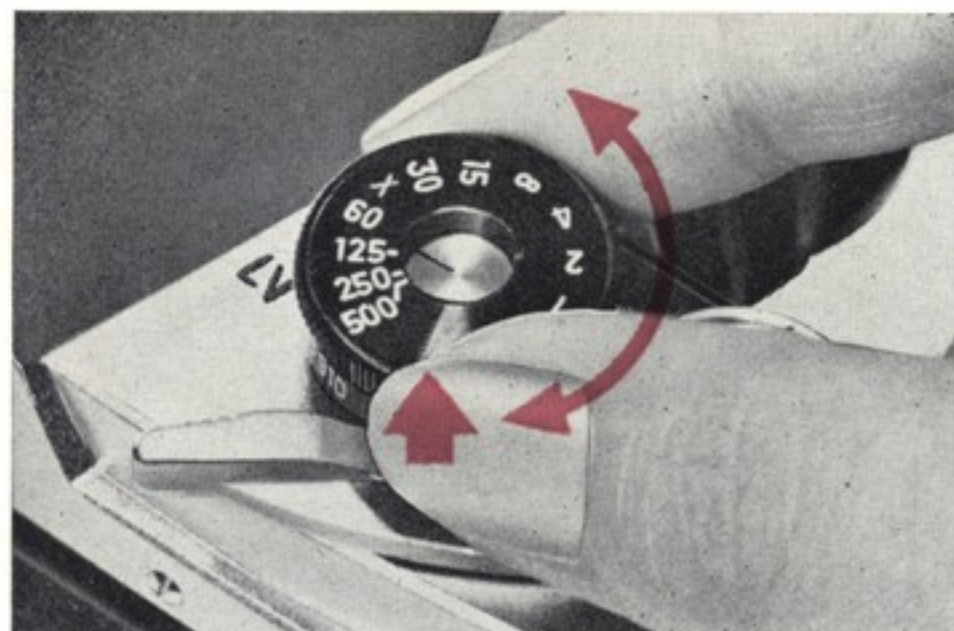
ミノルタ SR-1 のシャッターは進歩した単一不回転速度ダイヤル式になっていますから、低速から高速まで一操作で速度の調節が出来、しかも撮影のときダイヤルに指が触れて速度が狂うようなことはありません。

シャッター速度ダイヤルには B と 1 から 500 までの数字が刻まれています。1, 2, 4, 8, 15, … 500 の数字はそれぞれ 1 秒、 $\frac{1}{2}$  秒、 $\frac{1}{4}$  秒、 $\frac{1}{8}$  秒、 $\frac{1}{15}$  秒… $\frac{1}{500}$  秒のシャッター速度を表わしています。

B はバルブといって、この目盛に合わせておくとシャッターボタンを押している間中、シャッターが開いています。これは 2 秒以上の長い露出をするときに使います。

赤字の X は X 接点といってスピードライト (ストロボ) を使って撮影するとき合わせる目盛で約  $\frac{1}{50}$  秒になります。

詳しくは 25 ページをごらん下さい。



シャッター速度ダイヤルは十分つまみ上げて回し希望する速度目盛がダイヤルの中央の赤線に合ったところで元通り下ろします。ダイヤルは左右どちらへ回して合せてもかまいません。

このカメラの速度ダイヤルはシャッターを切ったときにも回りません。なお、シャッター速度を合せるのは、フィルムを巻上げる前後どちらでもさしつかえありません。





絞りリング⑪をリングについているボタン⑫を押しながら回し希望する絞り数字（白字）を、前部の白点に合せたところでボタンを離すとカチリと止ります。

なお、絞りを目盛の中間に合せると、シャッターを切ったとき目盛がずれることがありますからご注意ください。

絞りリングには2から22までの絞り目盛（F値）が上段に白字で刻まれています。

この絞り数字が大きくなるほど、レンズを通してフィルム面にとどく光量が少くなります。その割合は下図のようにF2から順次F22まで次第に光量が $\frac{1}{2}$ に減ってゆきます。なお、絞り目盛と並んで刻まれている黄色のライトバリュースケールについては12, 13ページをごらん下さい。

絞り	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22
光量	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$	$\frac{1}{32}$	$\frac{1}{64}$	$\frac{1}{128}$

絞りの調節はフィルム巻上げの前後いずれでもかまいませんが、巻上げ前に調節すると実際に絞り羽根が動いてファインダー視野が暗くなり（絞り効果が見られる）、フィルム巻上げによって再び全開になります。巻上げ後は絞りリングを回しても絞り羽根は開放のまま動きませんから、ファインダー視野は常に明快です。しかし、いずれの場合でもシャッターが切れる瞬前に、自動的に前もって決めて置いた目盛まで絞られますから、ご心配はいりません。従って、フィルムを巻上げてあるかないかを知りたいときは、ファインダーを覗きながら絞りリングを回して見ればわかります。



絞りは露光量を調節するとともに、被写界深度、つまりピントの合う奥行を調節する働きをします。

ピントの合う奥行、背景のボケ具合など、絞り効果の検討は、フィルム巻上げ前に絞りリングを回せばわかります。(17ページ参照)

被写界深度については、18ページで詳しくご説明いたします。

### 完全オートプリセット絞りとは

ミノルタ SR-1 が世界に誇り得る最大の特長は、その自動開放式プリセット絞り機構にあります。一眼レフは、レンズを絞るとファインダー視野が暗くなり、また、被写界深度も深くなってピントが合せにくくなるため、従来の一見レフは撮影の都度、一々手で絞りを開放にして焦点調節を行っていました。

ミノルタ SR-1 は巧妙な独創的設計によって、レバーでフィルムを巻上げれば絞りが自動的に開放になり、明快な視野によって構図の決定と焦点調節が迅速に出来、シャッターボタンを押せばシャッターが切れる瞬前に、自動的に前もって選んでおいた絞り値まで絞られます。従って、スナップのときなど、一々絞りを開放にしたり、絞ったりする手数がはぶけ、シャッターチャンスをつかえるのに非常に便利です。

しかもこの自動開放式プリセット絞機構は、標準レンズの他に 35mm 広角、100 mm, 135 mm 望遠レンズに対しても同様に働き、フィルム巻上げ後(絞り自動開放後)にレンズ交換をしても、交換レンズの絞りは自動的に開放になっています。



露出は大まかに言って、晴曇、季節、一日の内の時間、光源からの距離、フィルムの感光度等によって決めますが、最近の白黒フィルムは非常に露出の寛容度が広がっていますから、普通の被写体なら経験によって大体決められます。しかし、常に正確な露出を知るには、電気露出計の使用をおすすめ致します。カラー撮影の場合は特に必要です。

なお、ミノルタ SR-1 は世界最初の便利なライトバリュースケールがありますから、ライトバリュースケールのある新しい露出計をお使い下さい。

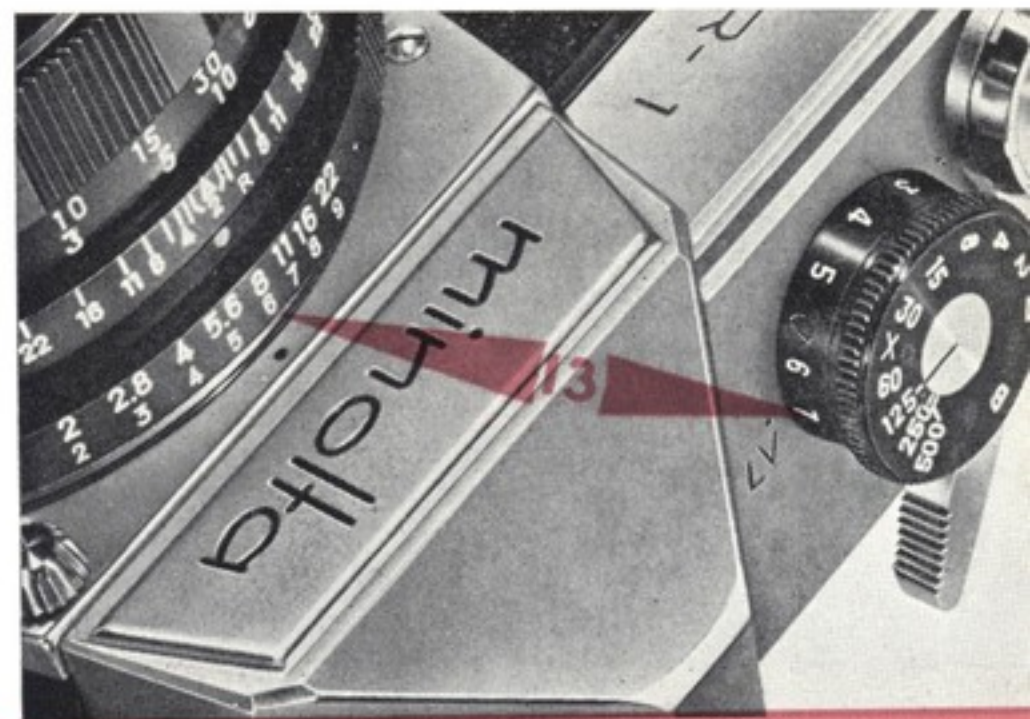
#### 絞りとシャッター速度との関係

ミノルタ SR-1 は下表の如く絞り目盛もシャッター速度目盛も倍数系列、つまりお互いに隣りの目盛の2倍、 $\frac{1}{2}$ の関係になっています。従って下表の絞りとシャッター速度との組み合わせはすべて同一露光量になります。

絞り (F :)	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22			
シャッター速度 (秒)	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	B

#### ライトバリュースケールの使い方

シャッター速度ダイヤルの側面と、絞りリングの下段には黄色い数字でライトバリュースケール値<sup>⑬</sup>が刻んであります。ライトバリュースケールのある露出計をお持ちの場合は、この目盛を利用して簡単に適正露出にセット出来ます。



分割式ライトバリュースケール



# 4

## ライトバリュウの使い方

合せ方は、まず、露出計が示すライトバリュウを読みとって、その数字をシャッターと絞りのライトバリュウ分値に分ければよいのです。

仮りに、ライトバリュウが13なら、図のようにシャッター7と絞り6、またはシャッター9と絞り4、シャッター5と絞り8といった具合に両方を合せて13になるようにすれば、どの組合せでも適正露出になります。

撮影目的によって、シャッター速度または絞りのどちらか重要な方を先に合わせると便利です。

例えば、動いている被写体の動きを止めて撮影したいときには、速いシャッター速度が必要となりますからもし $\frac{1}{250}$ 秒のシャッター速度が必要ならば、まずシャッター速度ダイヤルを回して、ライトバリュウ目盛を8( $\frac{1}{250}$ 秒)に合せます。露出計のライトバリュウが13なら絞りはシャッターの分値8をとった残り、つまり $13-8=5$ ですから、5(F5.6)に合せばよいのです。絞りを優先的にセットする場合(被写界深度の関係上)も上と同じ要領でセットします。



ライトバリュウ目盛を合せるには、絞りの方は普通の絞り目盛の場合と同じように、絞りリング前部の白点に目盛の数字を合せばよいのです。

シャッターの方はダイヤルの横にある、黄色のLVマークにライトバリュウ目盛の数字を合せます。



焦点調節はフィルム巻上げ後(絞り開放後)に行う方が、視野も明るく被写界深度も浅いので便利です。

但し、絞り効果の検討はフィルム巻上げ前に行います。(次ページ参照)

ファインダーをのぞきながら、焦点調節リング⑮を左右いずれかへ回すと、ボケている被写体(写そうとするもの)が鮮鋭になります。最も鮮鋭になったときにシャッターを切れば、フィルム面にも鮮鋭に写ります。ミノルタ SR-1 は焦点面レンズの下に集光作用の強いフレネルレンズが内蔵されていますから、ファインダー視野は周辺部まで一様に鮮明に見えます。但し中央部は焦点調節に便利なように平面にしています。





# 5

## 焦点調節と構図の決め方

前述のように、一眼レフは撮影レンズの画像そのものをファインダーを通して見るため、どんなに接近して写しても、パララックス、つまりファインダーで見える範囲と実際に写る範囲との誤差は起りません。

その上、被写体の遠近感や背景との関係、さらにカラー撮影の場合の色彩効果まで写る通りにわかります。

なお、絞りの変化によるピントの合う奥行(被写界深度)や、背景や前景のボケ具合(カラー、白黒ともに)等の検討は、フィルムを巻上げる前に絞りリングを回して見ればわかります。

こうして、露出と絞り効果とを考慮の上、適当な絞りにセットしてからフィルムを巻上げ、(絞りを開放にして)焦点調節を行います。



### 赤外線指標

赤外線フィルムを使用するときは、赤外線は波長が長いので、まず被写体に焦点を合わせてから▲印の示す距離目盛をよみとって、その目盛を赤字のRの位置までずらせて下さい。赤外線撮影をするときは赤フィルターを併用します。



ファインダーののぞき窓の黒いリングは時計の針と反対の方向に回すとはずれ、ここに色々な付属品を取りつけることができます。

胸高位置で上からファインダーをのぞきたい場合や、極端に低い位置で上向けに撮影する場合には、アングルファインダー（直角反射ファインダー）を取りつけると便利です。

なお、精密焦点調節用のマグニファイヤー（拡大鏡）やフラッシュガンを使用出来るアクセサリークリップ等がつけられます。

★ファインダー接眼リングを取り外したときは紛失しないようご注意ください。



カメラ上カバーの赤い印⑯はフィルム面の位置を示したものです。カメラから被写体までの距離とは、厳密にいうとレンズからではなく、フィルム面からの距離をいいます。

## 被写界深度とは

レンズというものは、ある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが鮮鋭に写るだけでなく、その前後にも実用上十分鮮鋭に写る範囲があります。

これをレンズの被写界深度といいます。

次ページの写真をごらん下さい。これは同じ位置から左側の女性に焦点を合わせて、二通りの異った絞りで撮影したものです。



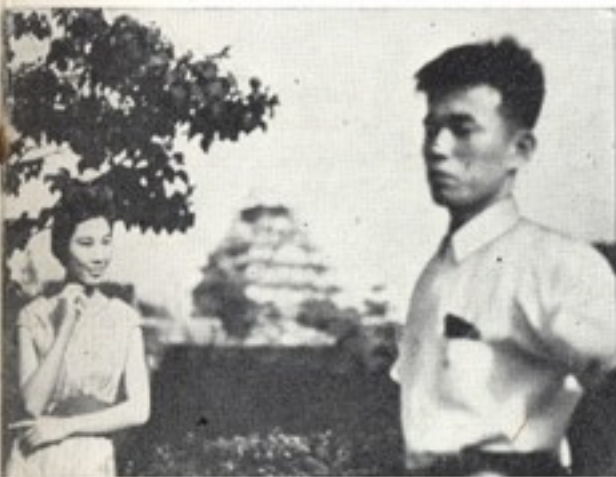
## 被写界深度の性質とその利用

同じレンズでは

1. 絞りを小さく絞るほど被写界深度は深くなります。
2. 近距離よりも遠距離にピントを合わせたときの方が深くなります。
3. 焦点を合わせた被写体の前より後の方が深くなります。

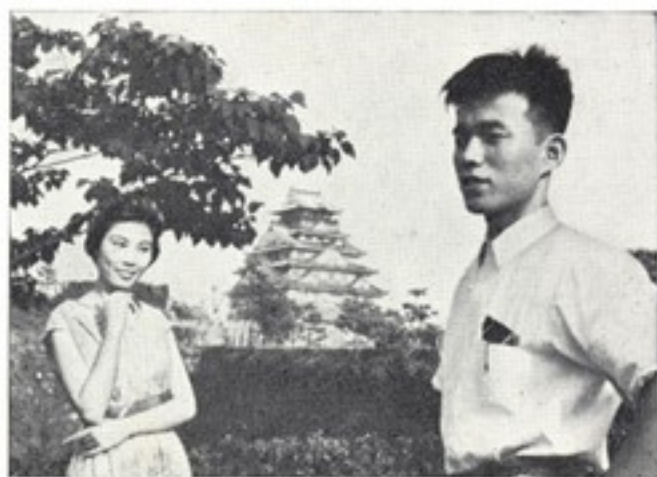
なお、焦点距離の短いレンズほど深くなります。

被写界深度は、絞の変化によって自由に深くしたり浅くしたりすることができるため、近距離にいる人物とともに遠くの背景も一様に鮮鋭に写したい場合や、逆にわずらわしい背景を適当にボカして、人物だけを鮮鋭に写して迫力を強調する場合など、背景及び前景の鮮鋭度を適当に調節して、写す目的や画面効果を上げる上にも利用いたします。



絞F2 (1/500秒) で撮影

焦点を合わせた左側の女性だけが鮮鋭に写り、右側手前の人物と背景の城はボケています。絞りを開けて写すと、このように鮮鋭に写る奥行(被写界深度)が浅くなります。



絞F22 (1/4秒) で撮影

焦点を合わせた左側の女性はもちろん、右手前の人物や背景の城まで鮮鋭に写っています。絞りを絞って写すと、このように被写界深度が深くなります。



### 被写界深度目盛の見方

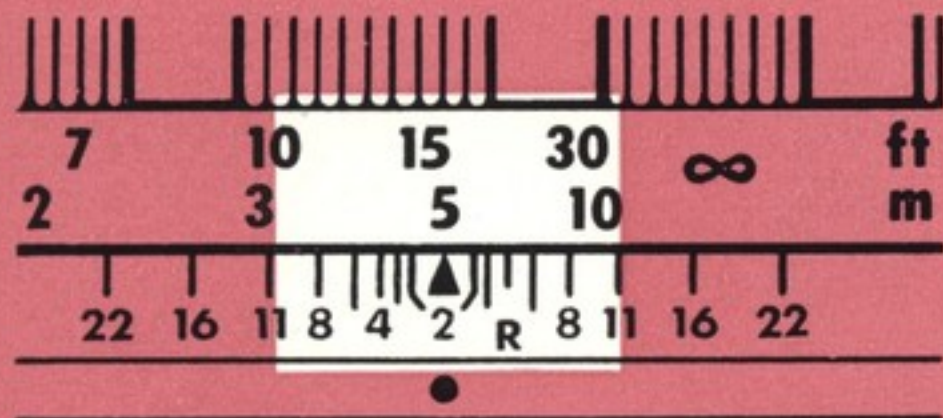
前述のようにミノルタ SR-1 はフィルムを巻上げる前にリングを回して絞りを合わせると、ファインダーを通して各距離における被写界深度(ピントの合っている奥行)やバックのボケ具合等がよくわかります。

しかし、フィルム巻上げ後や、写真を引伸した場合のボケて見えない限界を知るにはレンズ鏡胴の距離目盛のそばに刻んである被写界深度目盛⑯を利用すると簡単にわかります。





オートロッドコール PF 55mm F2 の被写界深度表



被写界深度目盛⑩(左頁)の中央にある▲印は焦点を合わせた被写体までの距離を示しています。そしてこの▲印の両側にある同じ絞り数字が、各絞りの場合の被写界深度、つまり鮮鋭に写る範囲を示しているのです。左の写真及び上図をごらん下さい。▲印が5を示しています。つまり被写体までの距離が5mということです。

この場合、仮に絞りをf11で写すとすれば、被写界深度は▲印の左右の11の目盛が示す距離目盛の範囲、つまり約3mから約14mの間で、この範囲にあるものはみな鮮鋭に写るわけです。

絞る程被写界深度が深くなることも上図でわかります。

絞(F) 距離(m)	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22
∞	41.29 ∞	29.51 ∞	20.67 ∞	14.78 ∞	10.36 ∞	7.55 ∞	5.20 ∞	3.80 ∞
20	13.51 38.60	11.96 61.52	10.20 567.15	8.54 ∞	6.86 ∞	5.51 ∞	4.15 ∞	3.21 ∞
10	8.07 13.14	7.50 15.04	6.77 19.18	6.00 30.38	5.13 247.83	4.34 ∞	3.46 ∞	2.78 ∞
7	6.00 8.40	5.68 9.13	5.26 10.49	4.78 13.12	4.21 21.04	4.18 86.65	3.02 ∞	2.50 ∞
5	4.47 5.67	4.29 5.99	4.05 6.54	3.76 7.47	3.41 9.48	3.04 14.32	2.59 98.74	2.20 ∞
4	3.66 4.41	3.54 4.60	3.37 4.92	3.17 5.42	2.92 6.40	2.65 8.28	2.30 16.23	1.99 ∞
3	2.81 3.22	2.74 3.32	2.64 3.48	2.52 3.72	2.35 4.15	2.18 4.86	1.94 6.79	1.71 13.02
2.5	2.37 2.65	2.32 2.72	2.25 2.82	2.16 2.98	2.04 3.24	1.91 3.65	1.72 4.63	1.54 6.84
2	1.91 2.09	1.88 2.13	1.84 2.20	1.78 2.29	1.70 2.44	1.61 2.66	1.48 3.14	1.35 4.00
1.7	1.64 1.77	1.62 1.80	1.58 1.84	1.54 1.90	1.48 2.00	1.41 2.15	1.31 2.44	1.21 2.92
1.5	1.45 1.55	1.43 1.57	1.41 1.61	1.37 1.65	1.33 1.73	1.27 1.83	1.19 2.04	1.11 2.36
1.3	1.27 1.34	1.25 1.35	1.23 1.38	1.21 1.41	1.17 1.46	1.13 1.54	1.07 1.68	0.998 1.89
1.2	1.17 1.23	1.16 1.24	1.14 1.26	1.12 1.29	1.09 1.34	1.05 1.40	0.999 1.51	0.940 1.67
1.1	1.08 1.13	1.07 1.14	1.05 1.15	1.03 1.18	1.01 1.21	0.977 1.26	0.930 1.35	0.880 1.48
1	0.980 1.021	0.972 1.03	0.961 1.04	0.946 1.06	0.924 1.09	0.899 1.13	0.860 1.20	0.817 1.30
0.9	0.884 0.917	0.878 0.924	0.869 0.934	0.857 0.948	0.839 0.971	0.819 1.00	0.787 1.06	0.752 1.13
0.8	0.788 0.813	0.783 0.818	0.776 0.826	0.766 0.837	0.753 0.854	0.737 0.876	0.711 0.916	0.683 0.970
0.7	0.691 0.710	0.689 0.712	0.684 0.717	0.677 0.725	0.668 0.736	0.657 0.750	0.639 0.775	0.618 0.809
0.6	0.594 0.607	0.591 0.609	0.587 0.613	0.582 0.619	0.575 0.627	0.566 0.638	0.552 0.658	0.537 0.682
0.5	0.496 0.504	0.494 0.506	0.492 0.509	0.489 0.512	0.484 0.517	0.478 0.524	0.469 0.536	0.458 0.552



シャッターボタンを押すと

1. 絞りが自動的に、合せてある目盛まで絞られ
2. 反射鏡がはね上り
3. シャッター幕が走って露出が行われ
4. 最後に反射鏡が元の位置へ戻ります。

胸高位置や低位置で撮影する場合には、ファインダー接眼部にアングルファインダーを取りつけると、縦、横位置ともファインダーを上から覗き込んで構図の決定と焦点調節が出来ます。



カメラの持ち方は大きくわけて、縦位置と横位置の二通りがあります。カメラが動かないようにしっかりと顔にあて、そしてシャッターボタンを静かに押して下さい。カメラが動くと折角の写真がブレてしまいます。なお、レバー巻上げ式カメラは横、縦位置ともにファインダーを右の眼でのぞく方が、巻上げのときレバーが顔につかえずに便利です。二重露出防止になっていますから、一度シャッターを切れば次のフィルムを完全に巻上げなければシャッターは切れません。またシャッターを切らなければ次のフィルムが巻けないことはもちろんです。



## ご注意

- ◆  $\frac{1}{30}$  秒より遅いシャッター速度で写すときは手持ち撮影ではカメラブレを起す恐れがありますから、三脚をお使い下さい。もし三脚がなければ、適当な台の上に乗せるか、またはそわせるかしてもよいのです。三脚などを使用する場合は、ケーブルリリース⑱を使った方がよいのです。
- ◆ ケーブルリリースはシャッターボタンの上にネジ込んでお使い下さい。
- ◆ 1秒、 $\frac{1}{2}$ 秒のように長いシャッターを切ったときは、必ずシャッターの作動が終ってから次のフィルムを巻上げるようにして下さい。特に、フィルムを入れずに空写しをするときにはご注意ください。





## フィルムの巻戻し

フィルムを全部写し終ると、巻上げレバーはそれ以上回わせなくなります。このとき無理にレバーを回すと、フィルムがパトローネの軸からはずれて巻戻しができなくなりますから、フィルムが終りに近づいたら巻上げにご注意下さい。



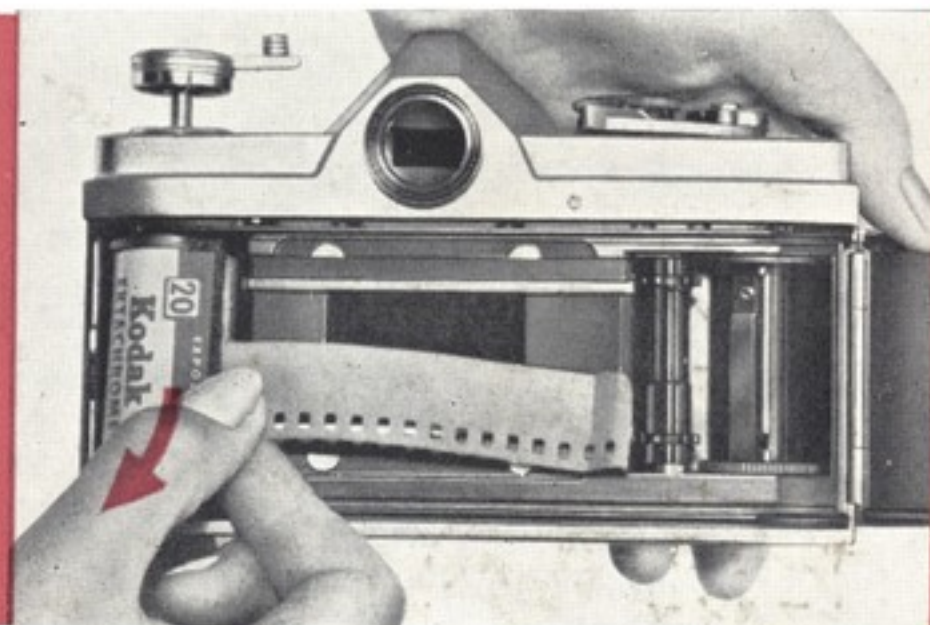
35mmフィルムは裸フィルムですから、パトローネを取り出す前に、必ずフィルムを元のパトローネの中へ巻戻さなければなりません。

1. カメラの底の巻戻し用押しボタン⑳を押し込みます。このボタンは指を離しても押し込まれた状態のまま止まります。もし指を離したときボタンが元通り出てくる場合は、ボタンを押したまま巻上げレバーを少し回して下さい。

2. 巻戻しクランク㉑を起して矢印の方向に回すと、フィルムは元のパトローネの中へ巻戻されて行きます。最後にフィルムが巻取軸のクリップから外れて、急に巻戻しが軽くなるのが手ごたえでわかりますから、そこで巻戻しを止めます。



巻戻しをする場合、巻戻しクラ  
ンクのついたノブを引き上げ  
てはいけません。パトローネの  
軸からはずれてしまいますし、  
誤って強く引き上げると、裏ぶ  
たが開きフィルムに感光します。



フィルムは全部パトローネの中へ巻込んでしまわない方がよいのです。

パトローネによってはフィルムの出口から多少光が入ることもありますから。

3. そこで巻戻しノブを十分引き出して裏蓋を開け、フィルムを取り出します。  
図のようにパトローネのテレンプの右端とフィルムとを一緒に持って、カメラのフィルム受軸からパトローネを外すようにして、やゝ右側から先に取り出します。
- ★ フィルムの出し入れのときに、シャッター幕に強く触れないようにご注意ください。
  - ★ フィルムの出し入れはなるべく日陰で行って下さい。



## セルフタイマーの使い方

セルフタイマーは自分も一しよに画面に入りたい記念撮影や、一人旅には絶対に必要な装置です。

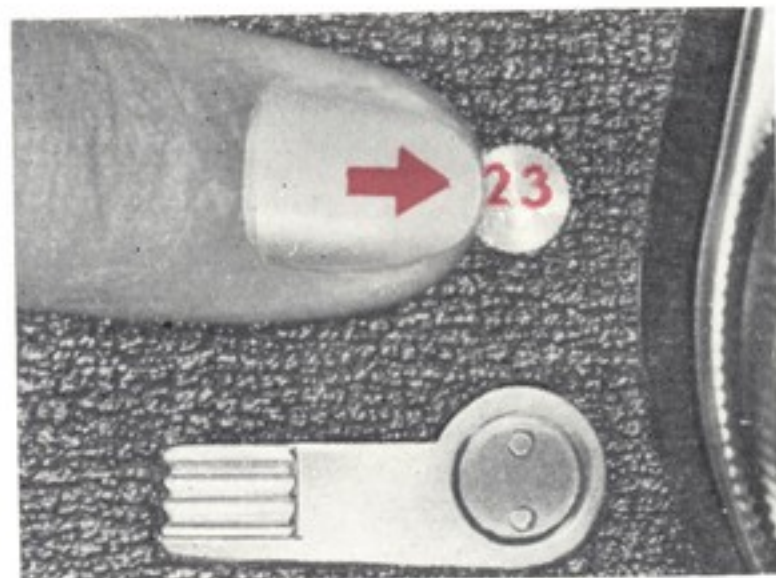
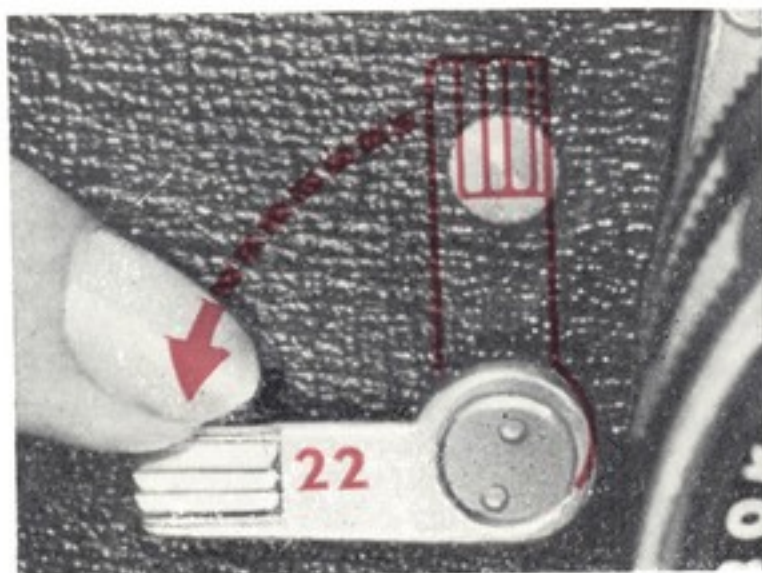
また、スローシャッターで手持撮影をする場合にも、短いセルフタイマーを利用してシャッターを切ると、指でシャッターボタンを押すよりずっとカメラブレを少なくすることができます。

シャッター速度ダイヤルを B (バルブ) にしてセルフタイマーを使うと約2秒の定時露出が得られます。

セルフタイマーを掛けて後、始動ボタンのかわりに、間違えてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーは作動せずに、直ちにシャッターが切れてしまいますからご注意ください。

☆セルフタイマーのチャージはフィルム巻上げの前後いづれでもさしつかえありません。

☆セルフタイマーで撮影するときは三脚を使用します。



1. セルフタイマーのレバー②②を倒すと、セルフタイマーがチャージされます。

レバーを倒す角度によつて約1秒から10秒まで作動時間を自由に調節することができます。但し約45度以上レバーをチャージしないとシャッターは切れません。図のように止るところまで横に倒したときは、約10秒間シャッターが切れるのを遅らせることができます。

2. 次にセルフタイマー始動ボタン②③を説明図の方向に少し押すと、セルフタイマーが作動を始め、数秒後に自動的にシャッターが切れます。(勿論、フィルムを巻いてなければシャッターは切れません。)始動ボタンを押すときはカメラを動かさないようご注意ください。折角決めた構図が狂ってしまいますから。



夜間や、うす暗い所でのスナップや室内撮影などには、閃光球かスピードライトを使ってフラッシュ撮影をして下さい。また、空、海、窓外を背景とした人物撮影や逆光線撮影などの場合に、陰影部の補助ライトとして使うことも出来ます。閃光球またはスピードライト(ストロボ)がシャッター幕の開くのと同調発光します。

カメラのレンズ台の向って右側面にFP(FP閃光球用)とX(スピードライト用)両接点の2つのターミナルがあります。



## 閃光球を使う場合

閃光球はフォーカルプレーンシャッター用のFP級のものをお使い下さい。発光器のプラグをFPターミナルへ差し込みますと、1秒から $\frac{1}{500}$ 秒までどのシャッター速度でも正確に同調発光しますが、ある程度明るい場所での動体撮影には $\frac{1}{60}$ 秒以上の高速度をお使い下さい。

なお、F級閃光球を使用する場合は次のスピードライト使用の場合に準じ、X接点で $\frac{1}{60}$ 秒以下の低速度に同調します。

## スピードライトを使う場合

スピードライト(ストロボ)を使うときは、シャッター速度ダイヤルの赤いXマーク(約 $\frac{1}{60}$ 秒)に合せ、Xターミナルを使用します。(X以下の低速度に合せてもよい)1秒から最高約 $\frac{1}{500}$ 秒(X)までのシャッター速度に同調します。但し、暗い所ではスピードライトの閃光時間が露出時間になり、どのシャッター速度で写しても同じですから、最高速度のXマークをお使い下さい。(次頁の一覧表参照)





## フラッシュ撮影組合せ表

(斜線の速度が適当)

接点	シャッター速度 級	シャッター速度											
		B	1秒	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	X	1/60	1/125	1/250	1/500
FP 接点	FP球 (大型)								斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
	FP球 (小型)										斜線	斜線	斜線
X 接点	F球	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線						
	M球	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線							
	ストロボ	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線						

★一眼レフはミラーがはね上っている瞬間にフラッシュが発光しますから、ファインダー視野は真っ暗で、発光しなかったように感じますからご注意ください。

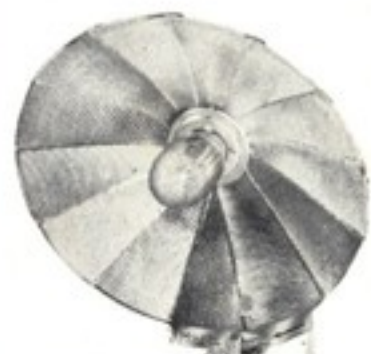
### フラッシュ露出の決め方

○各種閃光球の説明書には、その光量に応じてガイドナンバーと言って、各種感光度のフィルムと種々のシャッター速度に応じた適正絞りを決めるための指数が一覧表で示してあります。

**被写体距離×絞値＝ガイドナンバー**  
上記の関係式から、ガイドナンバーを被写体距離（光源まで）で割った値が適正絞となります。

○スピードライトの場合は、露出にシャッター速度を考慮する必要がありませんから、直接各場合の適正絞を示してあります。

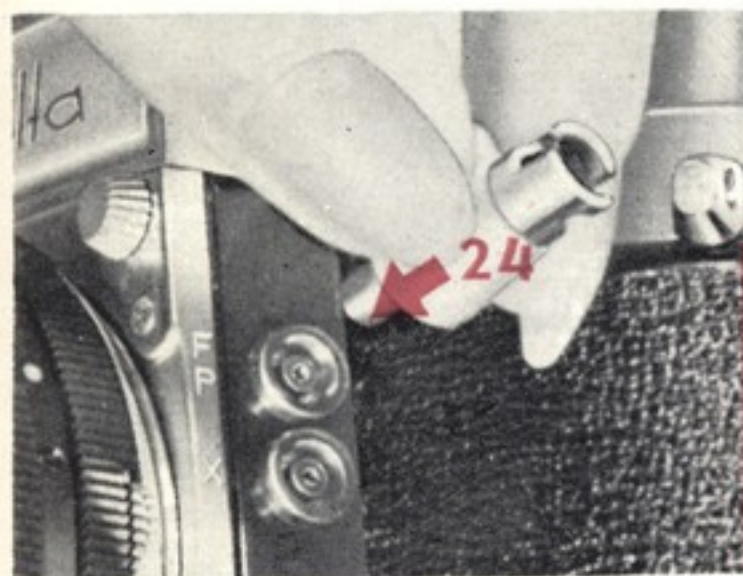
○明るい所で補助ライトとして使用する時は、主光線の露出に従います。



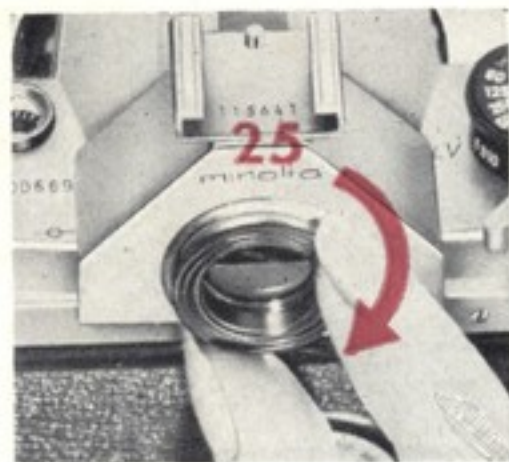


## 発光器の取り付け方

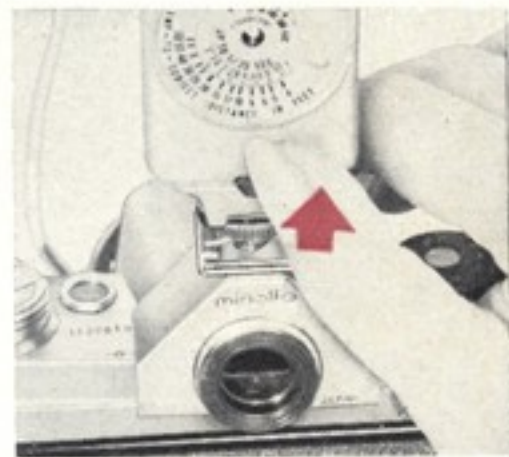
発光器の本体はカメラから離しても使用できますが、カメラに取りつけて使用したいときは、アクセサリークリップ（付属品として発売しています）をご利用下さい。その場合は次のようにして取り付けます。→



(A) ファインダーのぞき窓の黒いリングを、時計の針と反対方向に回して取りはずします。



(B) アクセサリークリップ②⑤を取りつけ、リングを元通りねち込んでしめつけます。



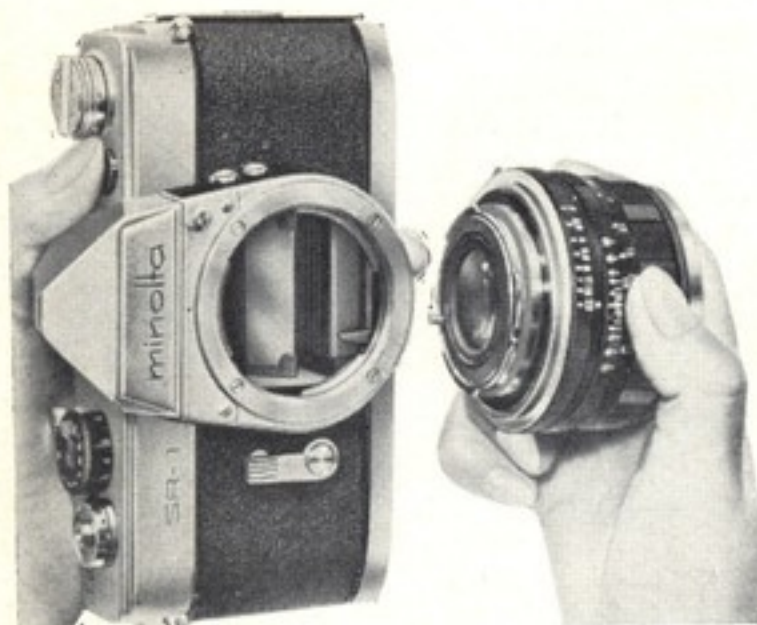
(C) 発光器の足をアクセサリークリップに後方から差し込み、発光器のねちで固定します。

←発光器のコードの先についているプラグ②④をカメラのシンクロターミナルに差し込みます。

FP級の閃光球を使うときは、青字でFPと書いてある上側のターミナルへ、またスピードライトを使う場合は、赤字でXと書いてある下側のターミナルに差し込みます。間違えないようご注意ください。



## レンズ交換



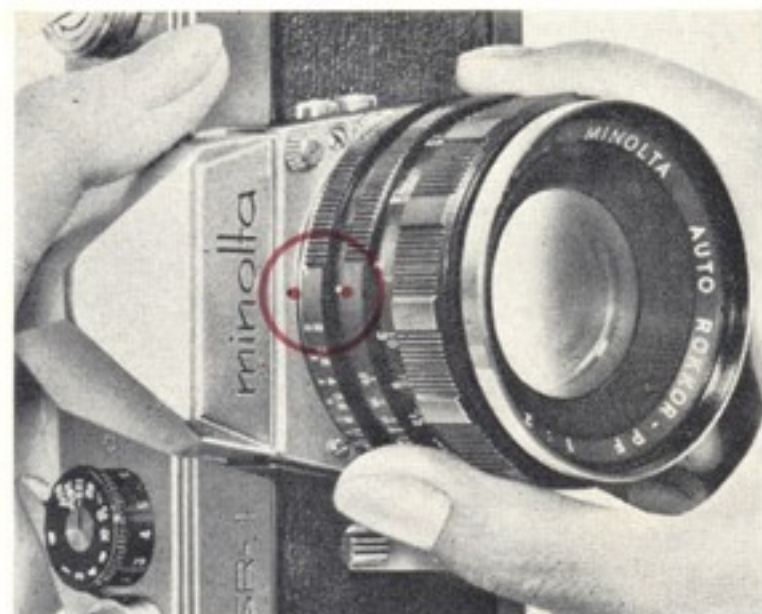
ミノルタ SR-1 は  $\frac{1}{4}$  回転のパョネットによって、迅速確実にレンズ交換が出来ますから、忙しいスナップの時や、長い望遠レンズや蛇腹装置を使う時、顕微鏡撮影の時などに非常に便利です。

フィルム巻上げ後(絞り自動開放後)レンズ交換をしても何ら差支えなく交換したレンズの絞りは自動的に開放になっています。



レンズを取りはずすにはレンズ交換用ボタン⑳を図のように下方に少し押しながら、レンズ鏡筒の基部を持って時計の針と反対の方向に止まるころまで ( $\frac{1}{4}$  回転) 回すとレンズがはずれます。

☆専用レンズ以外の交換レンズを使用する時には、各種アダプターが用意されています。



レンズを取りつけるにはレンズ鏡筒の赤点を、カメラの前カバーの赤点に向けてレンズをカメラの本体に差し込んで、カメラのレンズ座金とレンズとをピタリと合せ、次にレンズ鏡筒を時計の針の方向に  $\frac{1}{4}$  回転するとカチリと止まります。



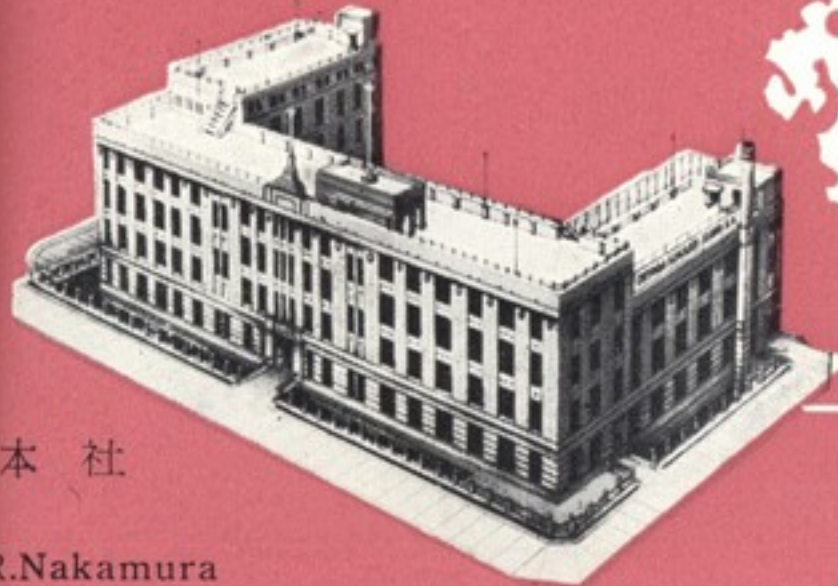
(愛用者カードは10日以内にお送り下さい)

### 三カ年品質保証

カメラの化粧箱の中に入っている愛用者カードは、所要事項をご記入の上、10日以内に、大阪本社サービス部宛お送り下さい。

そうすれば、あなたのカメラは当社の台帳に記載され、折返し三カ年保証証書をお送り致します。修理の時や、今後のあなたとの通信連絡、或は万一の盗難の時にも役立ちます。

万一故障の場合は直接大阪本社或は当社の各地のサービスステーションへご相談またはお送り下さい。一番速くお手許へ届きます。



本社

R.Nakamura



### 完備したアフターサービス

当社のサービスステーションは下記の所にあります。

カメラのご相談、修理等、ミノルタカメラ一切のアフターサービスを致しております。

またミノルタカメラ及び各種付属品のカタログも用意しております。お手紙またはお電話でもご遠慮なくお申し越し下さい。

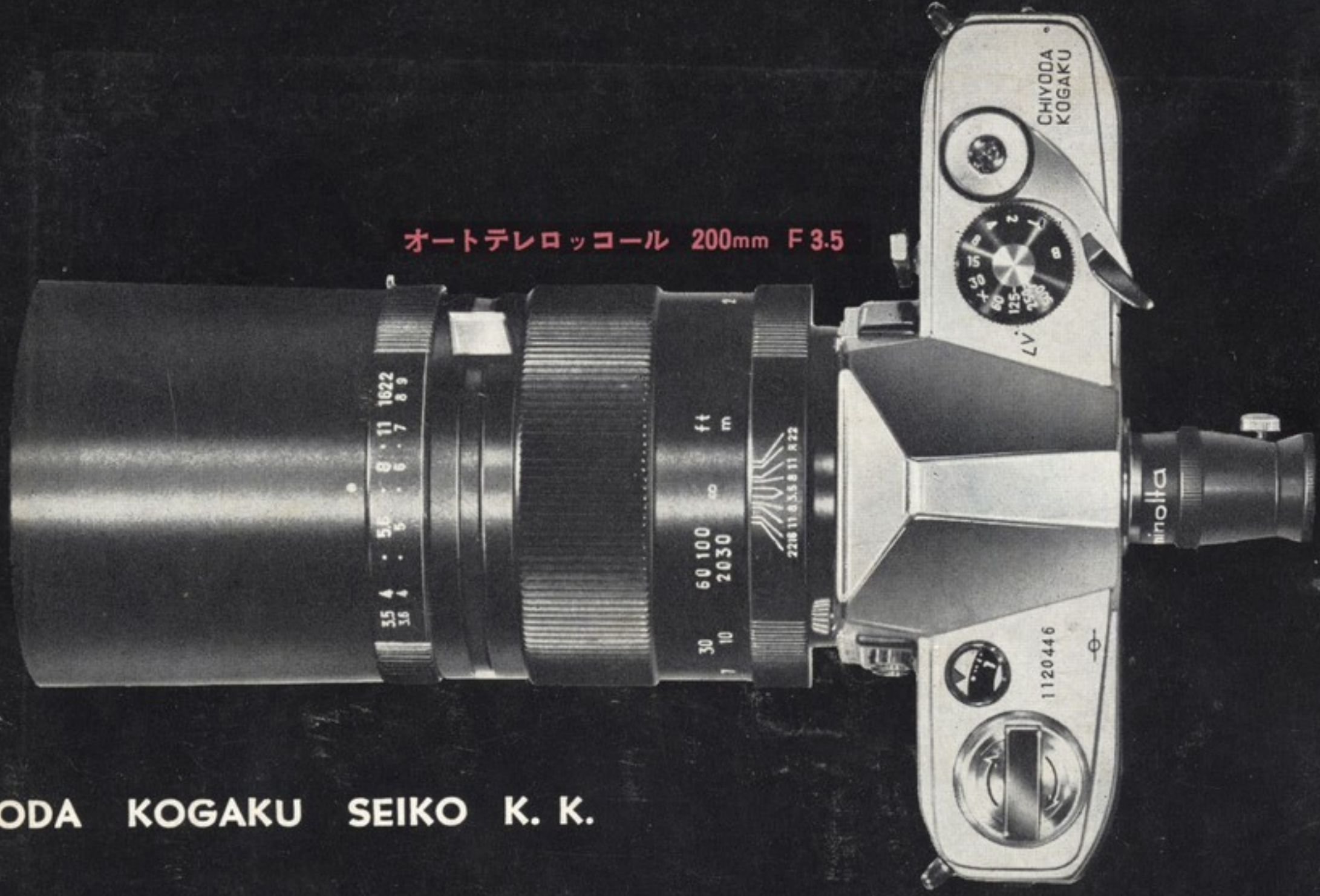
### サービスステーション

- ▶ 札幌市北2条西3丁目 越山ビル内 TEL④0181
- ▶ 東京都中央区銀座3 TEL⑤⑥4636
- ▶ 名古屋市中区南呉服町2~18 南呉服ビル内 TEL②④7221
- ▶ 大阪市東区北久宝寺町3 TEL②⑤2216
- ▶ 広島市八丁堀53 TEL②0286
- ▶ 福岡市下名島町57 大井証券ビル内 TEL⑤4472

## 千代田光学精工株式会社



オートテレロコール 200mm F3.5



CHIYODA KOGAKU SEIKO K. K.